

泉 いずみ

― 目次 ―

表紙「みゆきスタジオ閉店」

「百折不撓」野呂大悟

ステルス・オミクロン

山谷に生きる

みゆきスタジオ閉館

連載「私の出会った神様たち⑩」

孤児になる③

さとのりの知恵を読む 36 「三学」

掲示板・お知らせなど



閉店は 明日へのチャレンジ 春近し 博子

コロナの感染爆発が止まりませんね。身近な人や職場内において、もう何人もがコロナによって活動を制限され、不安の中に身を置きながらの生活を余儀なくされています。今や、「ウィズコロナ」なんて言ってられない状況になりつつあります。このままでは、社会の機能も麻痺したままですし、感染しても休めない福祉業界や医療機関は崩壊してしまいます。国の施策も待ってられません。「お金」の解決よりも「人的」な解決策を何とかしてほしいものです（切実です）。

さて、最近目まぐるしく毎日が過ぎていきます。今日は何曜日でも何日も分からないほど慌ただしい日々の中で、ふとコーヒーを飲みながら、この百折不撓を書いておられます。そんな中で、仕事での話になりますが、先日、共に働く同僚の「怒り」の感情に出会ったことを思い出しました。「なんでこんなにも分かってくれないんですか！腹が立ちます！」と。話を聞いていくと、「俺は一生懸命やっているのに、誰も僕の気持ちを理解してくれない！嫌になります！」という内容を縷々話してくれました。そんな話を聞きながら、自分にも同じような感情を持った経験や、今でもそんな感情は出たり引つ込んだり繰り返していることを考えていました。その職員に対して「苦しいよね」と心の中で思うと同時にこんな言葉を思い出しました。

「受けた恩は石に刻み、与えた恩は水に流せ」です。その言葉に出会った時に「俺は逆なら得意だけどなあ（汗）」と思ったのが正直なところでした。

きっとその職員も私自身も、一生懸命やろうと銘打って努力したことに対して、それなりの「見返り」を求めているのでしよう。それが「誰かのために」と思えば思うほど、その努力や頑張りに相応しい「見返り」があつて、そこに達成感ややりがいを感じるのではないのでしょうか。それは当然だ！と考える人も多いのではないのでしょうか。

しかし、時と場合によっては、自分が思うような見返りが無い場合だって当然あります。先ほども言ったように、「誰かのため」と思えば思うほど、相手が自分の思うような言葉であつたり、行動であつたり、物であつたりを欲し続けます。それが、満たされれば、次も頑張ろうと思うことだってあります。しかし、求めることに対して、何もなかったり、相違があつた場合、そこに対しての「怒り」の感情が生まれるのでしよう。結果として、「だったら、もうやってあげない。頑張るのがバカバカしい」と。良かれと思つて一生懸命やった結果、見返りがなければ「せっかくだとやってあげたのに、もうやってあげない」と。さらには、満たされたとして、次も頑張った結果、次は同じ事では満たされず、「もっともっと」と相手に見返りを求めてしまうのではないのでしょうか。人間の欲は底なしですね。それが、苦しみを生む原因ではないかと思えます。まさに四苦八苦の一つの苦しみ「求不得苦」ではないかと。

誰かの誕生日にプレゼントをあげても、その相手から自分の誕生日にプレゼントをもらえなければ、どう思いますか？「せっかくだとあげたのに、俺の誕生日にはくれないのか！」と怒るか、「別に自分の誕生日にプレゼントが欲しくてあげた訳じゃなく、本当にお祝いしたくてあげたんだから別に良いよ」と思うか。どちらが人生において苦しみを感ずるのか？だと思えます。

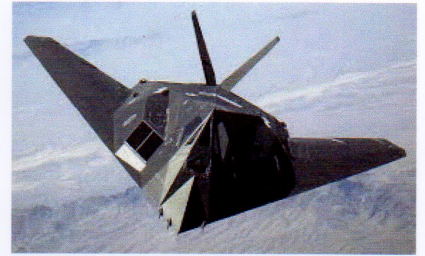
「受けた恩は水に流して、与えた恩は石に刻む」人生と、「受けた恩は石に刻み、与えた恩は水に流す」人生において、どちらが心穏やかに過ごせるのでしょうか。

お釈迦様は、これを「布施」という言葉で教えてくださっています。人のために何かをする時には、①私が②誰々に③何々をした」というこの3つを忘れなさい（三輪空）とおっしゃられています。

ん、人生は修行ですね。

ステルス・オミクロン考

◆昨今、コロナ禍の中で、恐ろしい変異株が見つかった。オミクロンの1.8倍の感染力を持つと言われている、ステルス・オミクロン株だ。私は以前から、レーダーに映らない、ステルス戦闘機に興味があったので、ステルスという言葉調べた。すると、もとは steal という単語だった。「盗む」という意味で、スチールなどと発音する。「ランナーダブルスチールしました。」と、野球用語ではおなじみ。steal に th をつけて名詞にすると、stealth となり、発音はステルスになる。◆私が興味を持ったのは、英単語で st から始まる語がとても多い事だ。(一説によると8,000語)お馴染みなものを紹介しよう。



star **名詞** : 星、stand **動詞** : 立つ、state **名詞** : 国、station **名詞** : 駅、statue **名詞** : 像、stay **動詞** : 居る、steady **形容詞** : 不変の、steel **名詞** : 鉄、steep **形容詞** : 険しい、stone **名詞** : 石、stop **動詞** : 止まる、strike **動詞** : 打つ、strong **形容詞** : 強い

◆st-単語を日本語の二字熟語で表わすと、「頑強!」「強固!」「固定!」「安定!」「実直!」などの意味があるそうで、「カチカチ」「コチコチ」「ガチガチ」「ゴツゴツ」といった表現がこれにあたる。これらはオノマトベ(擬態語・擬音語・擬声語)とも言われ、言語によく見られる表現である。◆私が興味を持ったのは、STの持つ不変性だ。キリスト教の saint (**名詞**: 聖なる、略して St.)にも通ずるかと思う(私の仮説だが)。とにかくどっしりとして動かない、そういうイメージだ。steal はそれに対して、どっしりしているものからずるいことをして逃れようと悪事を働くイメージがある。「こっそり盗む」、つまり人知れず悪事を働く、今回の新型株も同じように、知らぬ間に爆発的な感染力で、またたく間に広がるという意味だろう。◆しかし、一説には、感染力は強いが、重症化になるリスクは低いという。感染するけれども、風邪のような症状で収まっていく傾向がある。そうすると、ごく一般的な風邪と何ら変わらなくなる日も近いということか。◆だが、それは憶測にすぎない。この先、どのように変異するかもしれない。過去の感染症は、数年の期間を経て、収まっていった歴史がある。100年前のスペイン風邪も数年かかって普通の風邪のような症状に落ち着いた。今回もまだ時間がかかると思う。

◆さて、コロナ禍の中、私達の時間の使い方はある意味で無限と言ってもいいほどある。というのも、果てしない時間を、外にも出ず、テレビにも見飽き、食べすぎを控え、読書をする代わりに、日ごろ考えていた一つのヒントをきっかけに、いろいろ妄想してみるのも、興味深いと思ったのだ。◆言葉の起源を探ることは、私の趣味のひとつでもある。日本語の「雨」「頭」「足」「朝」など「あ」から始まる語も、神聖なるものが上から下へと下がっていくイメージでできた言葉だと誰かから聞いた。とても面白い。言葉をつきつめていくと、どんな世界に通じるのだろうか。◆イルカは言葉ではなく、その鳴き声で世界中のイルカと交信ができると聞く。つまり、言葉を必要としない生き物だということだ。◆人間にも、そのように、世界に通用する考え方や、争いを防ぐ手立てはないものかと思う。言葉を超えて理解しあえる優しさがあればいいのにと。でも、私たちは、そのように生きられない存在なのだろうか。人類の過去の歴史はお互いを殺し合い、権力の頂点を目指して、我も我もと熾烈な戦いの中で勝ち取ったものを文明と呼び、経済と呼び、繁栄と呼んできた。◆それらは、伸びることすらせよ、決して後戻りすることをしない。進歩と称する我々の歩んできた轍(わだち)の跡には、地球環境を自らの手で汚し、自分の首を自ら絞めていることにすら気づこうともしない、私達が作ってきた負の歴史がずっと続いているのだ。

◆SDGs が叫ばれて久しいが、掛け声だけに終わっていないか? ◆愛西市役所の庁舎の階段にも、17項目の持続可能だというはずの開発目標が貼り付けてある。以前、交通事故防止のために、交差点に、真っ赤なペンキが塗られた。血の色かと最初は驚いたが、ひと月経つと、何も感じなくなってしまったのは私だけか! 掛け声だけに終わってしまったり、ブームで終わるのは、特に日本でよくみられる傾向だ。2030年までにコロナが収束したのはいいけれど、「SDGs って何?? 今時そんなの流行らないよ!」っていうことにならなければいいのにと。思う。

◆一月二十九日、NHKのEテレで放映した標題の僧侶の生き方に、深く感動させられるものがあった。親子三代で山谷のドヤ街の生活困窮者に寄り添ってきた浄土宗一僧侶のドキュメンタリー。◆彼の祖父は、山谷の労働者の生活を住職の立場で支えた。当時ニコヨンと呼ばれた日雇い労働者だ。賃金が一日二百五十四円、宿代が百五十円で生活していた。◆当時は高度成長が始まる時だったから、都会の労働者は巷に溢れた。しかし、生活環境が悪化し、酒に酔った労働者が喧嘩や生活放棄を繰り返し、路上生活をしていた者もいた。◆祖父は、彼らに金銭や食事、寝床を提供しながら、地域の寺としての役割を果たしていた。しかし、限界を感じ、議員として立候補し、政治で彼らを救おうと尽力した。◆小さな寺でも、檀家のお経や葬儀・法事がある。祖父に代わって、寺役を一手に引き受けたのが彼の父である。父の時代も、バブルが崩壊し、労働者は苦しい生活を余儀なくされた。祖父と同じように、底辺の人びとを救おうとして父も僧侶の立場で尽力した。◆孫にあたる彼はそういう親の背中を見て育った。しかし思春期、彼は祖父や父の生き方を受けつぐことを拒否した。自分にその資格があるのか悩み、寺から抜けだして、他のことをしたいという願望があった。◆色々と祖父や父のしがらみから抜けだそうと、彼はもがいたけれども、やはり寺へ帰ってきた。そして、現在、「ひとさじの会」というボランティアグループを立上げ、路上生活者の

支援に奔走している。◆エピソード①血を吐いて苦しむ老人のために救急車を呼んだが、激しく拒否され、見殺しにした◆エピソード②極寒の見回り、路上生活者に食べ物配っていた時、当の老人が彼の手を握って「可哀そうに、こんなに冷たい手をして」と逆に彼の手を温めてくれた事。「してあげているという感覚が、相手に守られているという感謝の心が変わっていった。」と述懐する話◆インタビューを受けていた彼の眼が終始赤く潤んでいたのを私は見逃さなかった。◆三代目で寺を継ぐ彼の姿は私の半生と重なった。地域の寺として、私はまだまだすることが一杯あると、この番組から勇気をもらった。



◆表紙の写真は、1月で閉館したみゆきスタジオの様子だ。私達夫婦は、お礼を込めて、お嬢ちゃん夫婦に花束を贈った。最初は号泣してなかなか顔を見せてくれなかったが、数分たってやっと笑顔を見せてくれた。まだ目が潤んでいる。◆二十四年前、私は以前利用していたDPPの社長からこの写真館を紹介してもらった。お嬢ちゃんはそれ以来、ずっと私の要求する写真をプリントし続けてくれた。その数、数千枚、合計金額は恐らく数百万円を下らないだろう。◆以前勤めていた職場の行き帰り、ほとんど毎日のように立ち寄った。お嬢ちゃんは優秀なプリンターであり、私の好みをよく理解し、ほとんどミスなしにプリントしてくれた。◆私の写歴は五十年に手が届く。教員で写真部の顧問をしていた頃、モノクローム（白黒）の現像・プリントは部室の暗室で部員と共に悪戦苦闘して作っていた。◆それとは別にカラースライドやカラーネガのプリントはすべてみゆきスタジオのお嬢ちゃんにお任せした。随分無理を言ったこともある。でも、お嬢ちゃんは嫌な顔一つせず、いつも笑顔で私の頼みを聞いてくれた。◆月日が流れて、写真はスライドやネガからデジタルデータに変わっていった。つまり、コンピュータにデジタルデータを入力すれば、ド素人でも自分の家でプリントができる時代になった。◆わざわざ写真屋でプリントする手間が無くなってしまった。今は携帯で撮影した画像を

そのまま保存し、携帯で見せる時代になってしまった。大きく伸ばして展示会の場でじっくりと觀賞する余裕すらない時代に入ってしまった。写真の奥深さや面白さが全く失われたと言ってもいい時代になった。◆みゆきスタジオもマニアのために懸命にプリントを作り続けてきたが、ここらが潮時で閉館ということになった。◆私が今でもお嬢ちゃんと呼ぶのは、二十四年前の初々しいお嬢ちゃんのイメージが今でも感じられるからである。◆詩人・茨木のり子曰く、「自分の感受性ぐらい自分で守れ、馬鹿者よ！」そんな言葉で私を鼓舞するようなお嬢ちゃんであった。◆中学生をはじめとする三人の娘のママでもある。ご夫婦、長い間ご苦労様、今後の健闘を祈る！



孤児になる③

◆戦争中、子供を警察で殴ることは決してよくないと思いますが、僕はウソをついて大人をだますことはこんなにも怖いことなんだな、ということが身にしみて分かりました。二度とそういうことができなくなつた、ということとは僕個人にとってみればよかったと思つています。◆あのとき、殴つてくれた刑事さんも神様だったのかな、と僕は考えるわけです。◆家庭がこうだから、友だちがこうだから、受験勉強がこうだからといって、ぐれたり、悪いことができるのだつたら、こんな楽なこととはないのであります。◆今は親たちが色々理由をつけてくれまして、本人が余りにもかわいそうだという風に持つて行く傾向があるのではないかと。色々理解をしてやることは良いのですけれど、悪いことまで肯定してはいけません。◆もしそうなら、親がいないから悪いことをしてもいいのか、貧しかったら悪いことをしてもいいのか、という理屈が成り立つはずですよ。◆僕など継母にいじめられて、家出をしている訳ですから、かわいそうなのは僕ですよ。でも僕に対しても容赦はしなかつた。狂言をしたことで思い切りたたかれました。◆今から思うと、震え上がるほど怖かつたのです。今は子供たちがあまり

怖がらなくなつてしまつたということはどう言うことだろうと、個人的に思つて居るのです。◆住所と名前を言つてしまつたものから、新出来町の家に刑事さんが僕を連れていきまして。するとこの二十日の間に、母は荷物を全部たんでしまつて、人に家も売つてしまひました。父が残した物も安く売つてしまひ、役所で母と義理の弟の籍は抜けていたのです。◆これが僕の九才の時でした。どこにゆくというあてもないので、僕は施設に入れられました。(続)



◆さとりを求める者が学ばなければならぬ三つのことがある。それは戒律と心の統一（定「じょう」）と智慧の三学である。◆戒とは何であるか。人として、また道を修める者として守らなければならぬ戒を保ち、心身を統制し、五つの感覚器官の入り口を守って、小さな罪にも恐れを見、善い行いをして励み努めることである。◆心の統一とは何であるか。欲を離れ不善を離れて、次第に心の安定に入ることである。◆知恵とは何であるか。四つの真理を知ることである。それは、これが苦しみである、これが苦しみの原因である、これが苦しみの消滅である、これが苦しみの消滅に至る道であると、明らかに悟ることである。◆この三学を学ぶものが、仏の弟子といわれる。「パーリ『増支部経典』より」

◎仏弟子が学ぶべき三つの道

◆仏教では、ブツダが得た「さとの境地」に到達するために修行します。◆その境地をめざす人を、仮に精神のアスリートと考えてみましょう。そうしたアスリートたちが精神を鍛えあげるためのトレーニングとは、はたしてどのようなものなのでしょうか。◆普通のアスリートであれば、走る、跳ぶ、投げるなど、眼に見えるパフォーマンスをくり返して肉体を鍛えあげてゆくわけです。◆精神を鍛えあげるときもやはりトレーニングは必要です。それが、戒律・禅定（心の統一）・智慧と

いう三種のトレーニングなのです。◆その内容は、まさに上の通りなのですが、ここでは逆の順番で三つの関係性を説明していきましょう。◆精神のアスリートが最終的に必ずしなければならぬのは、「四つの真理」を見きわめることです。これらをよく知るためには、すばらしい智慧が必要になってきます。◆その智慧を獲得するために実践するのが、心の統一のトレーニング、つまり瞑想です。具体的には座禅などを行うことによって、精神の安定がはかれるように鍛錬するのです。◆その心の統一を行うための準備運動として、戒律を守らねばなりません。心と体は二つに分けて考えるのが一般的ですが、実はこの二つは深くつながっています。戒律を守ることは、心身の両方をみずから律していくことなのです。◆この三つこそが、精神のアスリートの実践トレーニング法にほかなりません。



二月の行事予定

三江会追弔会・同窓会打合せ 六日(日)

東日本大震災追弔法要 十一日(金)

環境保全代表者会(書面開催) 十二日(日)

法事・月参り 十三日・十四日・二十七日

今月の掲示板

暗闇でしか
見えぬものがある

モモケン

◆朝ドラの剣士「桃山剣之介」のきめぜりふ。私のささやかな人生にも、暗闇で多くのものが見えました。皆さんはどうですか？

訃報

堀田典子さん 桑名市 享年九十五才

編集後記

◆被災地仙台の海楽寺の長男。大友椋太郎君が友人と共に突然来訪しました。沖繩在住で二十四才にして二児のパパ！ 九年前、中学生の時、安泉寺に三泊し、インパクトを与えて去っていききました。今回も晴天の霹靂でした。よく安泉寺を覚えていてくれたものだと嬉しく思いました。十一日には勿忘(わすれな)の鐘を撞きます

◆写真仲間で友人の伊藤勝美さんが愛知県のももコンテストで見事農林水産大臣賞を獲得、**ゆめのかブランド**は愛西市の特産です。苺農家で寺報の愛読者の佐藤博さんも力を入れていきます。愛西市で頑張っている農家の発展を心から応援します！

◆コロナ禍の中、リスクを避けて、ハザード会の市役所でのプレゼンテーションを辞退しました。室内で二十名ほどが集まって、熱弁を振るわなくてはなりません。蔓延防止期間が延長されたので、文書のやりとりで代替できないかと頼んでも、聞き届けてはもらえませんでした。私達はコロナを災害と捉えています。災害時の市の対応がこの様では思いやられます。私達は生徒を危険にさらすことは出来ません

◆二月六日の朝、ワクチン接種に行きました。朝から降る雪に一句、

降る雪に 心清まる ワクチン日 (以上老僧)

◆ハザード通信第二号を付録にします。お読みください